東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006 年 6 月 3 日

知識から道徳へ

ムスリムの皆様。通信技術の大きな発展により、知識を共有することにおいて、高度な発達が成し遂げられました。知識を目標のところに届けること、そして多くの問題の解決にその力が発揮されています。今日、知識の力、知識の蓄積は過去と比較ができないほど増しています。しかし、それにもかかわらず国際関係が痛みや涙でけがされ、個人や社会の生活に不穏さが増してきています。社会の均衡が日々、崩れてきています。この世界がますます生きにくい状態になっている、ということも事実なのです。知識や通信手段が本来の目的に応じて用いられず、遊びに用いられていること、けがれた知識が世界で主権を持ち始めたこともまた、真実です。

親愛なるムスリムの皆様。今日、最も大切な事柄の一つが、人間と知識のかかわりが、その人の性質にどのような影響を与えているかという点です。知識と性質の一致、あるいは知識が道徳的な価値の軸において位置を占めていることは、人間にとって大変重要なものを守るものです。

知識は、決して擦り切れることのない価値です。人が、知ったことをその人生に生かし、知識の導きによってその生活をよりよいものにしていくことは、立派な徳のあることです。単に知識、というだけでは不十分なのです。大切なのは知識が言葉としてのみあるのではなく、行動にうつされること、生き方に反映されること、そしてプラスの意味で、態度に現されることです。だから、仕事における態度、商売における態度が重要なのと同様に、知識に対する態度、すなわち知識をどのように、何を目的として用いるか、ということもまた、重要なのです。兄弟姉妹の皆様。私達の教えでは、個人的、もしくは集団的行動に益をもたらさない、性質や態度を悪化させ得る知識には価値を置いていません。私達の教えは、知識がその知識の持ち主が賢明に生きるうえで助けとなることを求めます。知識に対する態度を人生に反映させない者を非難します。預言者ムハンマド（彼の上に平安と祝福あれ）は、個人や人類全体に益をもたらさない知識から、アッラーに庇護を求められました。またクルアーンでは「知っている者と、知らない者と同じであろうか。」（集団章第９節）と明示されているのもこのためです。さらには、知ったことを生き方に反映させない者に対して、「書物を運ぶロバ」（合同礼拝章第５節）という比喩が使われているのです。

人が手に入れた知識を、性質や態度に反映させることへの最大の障害が、この世に対する執着でしょう。だからこの世に対する執着を持った人は、自らの目的を変え、この世界から最大限に快楽を得ようとするのです。それに従って好むと好まざるとにかかわらず、品、道徳、美徳といったような価値あるものは消滅していきます。そしてあらゆる規則、規律、そしてさらに大切な宗教が、それらと共に失われるのです。

ムスリムの皆様。神による最後の教えに従う者たちとして、私たちは宗教心を知識、愛情、そして徳の次元において豊かにしていかなければなりません。私たちは人類への最も優れた徳の使徒である預言者に従う者であるからです。

徳によって磨かれ、徳の導きによって価値のある方向へと向けられた知識は、ムスリムのためだけにとどまらず、全ての人が必要とするものでもあります。今日、全世界的に起こっている多くの問題の解決は、知識と態度の一致にかかっている、ということを忘れずにいなければなりません。